

# 認知症ケア論

《担当者名》鈴木 真人 s-masato@hoku-iryo-u.ac.jp

## 【概要】

認知症高齢者が増加し続ける今、介護現場や介護職だけではなく、あらゆる領域の専門職にとって認知症ケアの知識や技術は不可欠となっている。そこで本講義では、社会福祉の専門職として必要な認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症を抱える人やその家族、周囲の環境にも配慮したケアや、関わる上で必要な知識や技術を習得する。DVDの視聴、事例の検討等を通して、アセスメントや関わり方について実践的に学ぶとともに、チームアプローチを行う上で不可欠な自分の意見や考えを、根拠をもって他者に説明できる力を身につけることを目指す。

## 【学修目標】

- ・脳の仕組み、認知症の原因疾患の特性について理解し、説明することができる。
- ・認知症の特性と環境による影響も含めたアセスメントの意義を理解し、自身の関わり方や支援方法について他者に根拠をもって説明することができる。
- ・認知症の人や家族を支援する上で必要となる法制度や専門機関・職種について理解し、説明することができる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 認知症を取り巻く状況 (認知症へのイメージ)	・本講義の概要を確認・理解する。 ・世間や各自の認知症に対するイメージを共有するとともに、認知症を取り巻く状況(社会問題、制度)やケアの必要性について理解し、説明することができる。	鈴木
2	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 (診断基準、実態、脳のしくみ)	・認知症にかかわる医学的基礎知識(認知症の定義、診断基準、出現率、脳や神経のしくみ)について理解し、説明することができる。	鈴木
3	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア(症状、原因疾患、ケア)	・原因疾患別の特性、心理的背景を理解し、本人や家族をケアする上での留意点について説明することができる。 ・原因疾患別のケアの留意点を理解し説明することができる。	鈴木
4	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (症状、ケア)	・認知症の中核症状とBPSDの違いについて理解し、説明することができる。 ・映像や事例検討を通じ、認知症の人の言動の背景・心理的影響をふまえ、具体的にどのようなケアが求められるのか、自分の考えを他者に説明することができる。	鈴木
5	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (症状、ケア)	・DVD等の視聴を通じ、認知症の人の言動の背景・心理的影響をふまえ、具体的にどのようなケアが求められるのか、自分の考えを他者に説明することができる。	鈴木
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (認知症の診断・検査)	・認知症の診断・検査の方法、MCIや他の疾患との違いについて理解し、説明することができる。 ・診断の流れを実際に学び、認知症の診断の現状や難しさ、告知の問題について理解し、自分の考えを説明することができる。	鈴木
7	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 (若年性認知症の理解)	・若年性認知症と老年性認知症の違いについて理解し、支援する上でのポイントについて説明することができる。 ・若年性認知症ならではの支援ニーズについて理解し、説明することができる。	鈴木
8	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (認知症ケア、治療の方法)	・認知症ケア(薬物療法、非薬物療法)、パーソンセンタードケア、ユマニチュードなど代表的な理論や実践方法について理解し、説明することができる。	鈴木

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	レポート課題の提示・説明		
9	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (認知症ケア、アセスメント)	・各生活場面での認知症ケアの留意点について理解し、説明することができる。 ・認知症の人のアセスメントの方法やツール、留意点について理解し、説明することができる。 ・人的・物的・社会的環境に配慮したケア、アセスメントのポイントについて理解し、説明することができる。	鈴木
10	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (環境に配慮した生活支援) 連携と協働、地域でのケア	・各生活場面での認知症ケアの留意点について理解し、説明することができる。 ・環境に働きかける意義や方法について理解し、説明することができる。 ・認知症の予防の方法、危険因子について理解し、説明することができる。 ・地域で生活をする認知症の人や家族への支援の方法、地域住民に対する働きかけについて実践を通して学び、他者に意義や目的を説明することができる。	鈴木
11	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (認知症の人に寄り添うための人材育成)	・認知症ケアに携わる専門職としての心構え、意義、やりがいについて理解し、説明することができる。	鈴木
12	認知症を取り巻く状況 (認知症ケアの歴史、理念、倫理)	・認知症ケアの理念、認知症ケアの歴史と課題について理解し、説明することができる。 ・認知症ケアにおける倫理的問題に関する事例検討を通じて、自分の意見を根拠をもって他者に説明することができる。	鈴木
13	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア (チームアプローチ)	・地域におけるサポート体制や他職種協働の継続的ケアの実践を理解し、説明することができる。	鈴木
14	認知症を取り巻く状況 家族への支援 (認知症ケアの理念・倫理・意思決定支援)	・認知症の発症前から人生の最終段階まで本人主体のケアを実践する上での留意点について理解し、説明することができる。 ・認知症の人の意思決定支援について自分の考えを他者に説明することができる。	鈴木
15	認知症を取り巻く状況 家族への支援 (権利擁護)	・認知症を取り巻く状況としての権利侵害の問題、介護・福祉・医療現場における身体拘束の問題、関連する法制度について理解し、説明することができる。	鈴木

## 【授業実施形態】

## 面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

定期試験(筆記試験)80% レポート20%

## 【教科書】

介護福祉士養成講座編集委員会編『最新介護福祉士養成講座 認知症の理解 第2版』中央法規出版、2022年

## 【参考書】

公益社団法人日本看護協会編『認知症ケアガイドブック』照林社、2016年

## 【備考】

この科目は、介護福祉士国家試験受験資格取得のための「認知症の理解」に該当する。また、教職課程(福祉)では、教科に関する科目の「加齢に関する理解・障害に関する理解」に該当する。

- ・授業中は私語厳禁。
- ・出席確認はコメント票を用いて厳格に行う。

## 【学修の準備】

- ・認知症に関連するニュースなどテレビ・新聞等の報道や、話題になっている書籍などに日頃から関心を持ち、授業で学んだことと関連づけながら理解を深めること(1時間30分)。
- ・授業中にディスカッションした内容、事例検討の内容などを振り返り、関連する課題について自分の意見をまとめレポート作成の準備を行うこと(30分)。
- ・授業中に提示された課題を行うとともに、授業中に重要だと指摘した事項については特に自ら調べ、復習すること(2時間)。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP2：福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている

DP1：人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている

**【講義の受講にあたって】**

認知症高齢者や家族とコミュニケーションをとる機会、支援する機会は多く、医療現場等においても認知症ケアの知識や技術は不可欠であることから、ケアマネジメントコース以外の学生も含め多くの学生が履修することを強く勧める。

**【実務経験】**

看護師

**【実務経験を活かした教育内容】**

医療施設での実務経験をいかし、認知症の疾患の特性、ケアの方法や留意点などの基本的知識を講義する。

**【その他】**

この科目は主要授業科目に設定している